

2 麦 類

(1) 要 旨

ア 作付面積

令和3年産4麦（子実用）（小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦）の作付面積は28万3,000haで、前年産に比べ6,800ha（2％）増加した。

このうち、北海道は12万8,300ha、都府県は15万4,700haで、それぞれ前年産に比べ4,100ha（3％）、2,600ha（2％）増加した（表2-1、図2-1）。

イ 収穫量

令和3年産4麦（子実用）の収穫量は133万2,000tで、前年産に比べ16万1,000t（14％）増加した。

これは、小麦、二条大麦及びはだか麦の10a当たり収量が前年産を上回ったためである（表2-1、図2-1）。

図2-1 4麦（子実用）の作付面積及び収穫量の推移（全国）

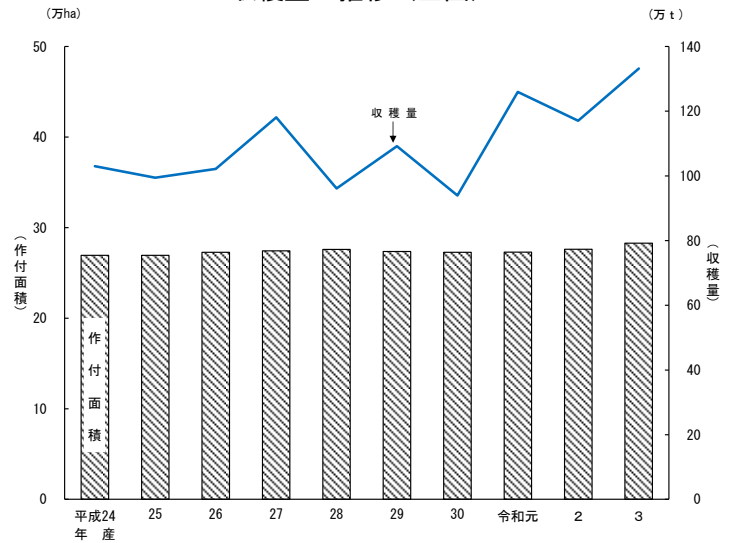


表2-1 令和3年産4麦（子実用）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収	収 穫 量		10a当たり 平均収量 対 比	10a当たり 平均収量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	%	kg	
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
全 国											
4 麦 計	283,000	...	1,332,000	6,800	102	nc	161,000	114	nc	...	
小 麦	220,000	499	1,097,000	7,400	103	112	147,700	116	118	423	
二条大麦	38,200	413	157,600	△ 1,100	97	112	12,900	109	130	317	
六条大麦	18,100	304	55,100	100	101	97	△ 1,500	97	104	292	
はだか麦	6,820	324	22,100	490	108	101	1,700	108	122	266	
北 海 道											
4 麦 計	128,300	...	737,700	4,100	103	nc	99,600	116	nc	...	
小 麦	126,100	578	728,400	3,900	103	112	98,500	116	118	489	
二条大麦	1,740	446	7,760	△ 20	99	103	160	102	117	380	
六条大麦	x	x	x	x	x	x	x	x	x	288	
はだか麦	498	293	1,460	303	255	102	903	262	96	306	
都 府 県											
4 麦 計	154,700	...	594,400	2,600	102	nc	61,400	112	nc	...	
小 麦	93,900	393	368,900	3,500	104	111	49,500	115	119	329	
二条大麦	36,400	412	149,800	△ 1,100	97	113	12,700	109	131	315	
六条大麦	18,000	306	55,000	0	100	97	△ 1,600	97	105	292	
はだか麦	6,320	326	20,600	180	103	101	700	104	123	266	

注：1 「(参考) 10a 当たり平均収量対比」とは、10a 当たり平均収量（原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値をいう。ただし、直近7か年全ての10a 当たり収量が確保できない場合は、6か年又は5か年の最高及び最低を除いた平均とし、4か年又は3か年の場合は、単純平均である。）に対する当年産の10a 当たり収量の比率である。なお、直近7か年のうち、3か年分の10a 当たり収量のデータが確保できない場合は、10a 当たり平均収量を作成していない（以下各統計表において同じ。）。

2 全国農業地域別（都府県を除く。）の10a 当たり平均収量は、各都府県の10a 当たり平均収量に当年産の作付面積を乗じて求めた収穫量（平均収穫量）を全国農業地域別に積上げ、当年産の全国農業地域別作付面積で除して算出している（以下各統計表において同じ。）。

表 2-2 令和3年産4麦（子実用）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量（全国農業地域別）

全農地 農業地域	4麦計		小麦				二条大麦				六条大麦				はだか麦			
	作付面積	収穫量	作付面積	10a当たり収量	収穫量	(参考)10a当たり平均収量対比	作付面積	10a当たり収量	収穫量	(参考)10a当たり平均収量対比	作付面積	10a当たり収量	収穫量	(参考)10a当たり平均収量対比	作付面積	10a当たり収量	収穫量	(参考)10a当たり平均収量対比
	ha	t	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%
全国	283,000	1,332,000	220,000	499	1,097,000	118	38,200	413	157,600	130	18,100	304	55,100	104	6,820	324	22,100	122
北海道	128,300	737,700	126,100	578	728,400	118	1,740	446	7,760	117	x	x	x	x	498	293	1,460	96
都府県	154,700	594,400	93,900	393	368,900	119	36,400	412	149,800	131	18,000	306	55,000	105	6,320	326	20,600	123
東北	7,760	20,800	6,290	251	15,800	105	x	342	x	133	1,450	337	4,890	111	x	x	x	x
北陸	9,990	29,200	331	198	657	95	2	200	4	133	9,660	295	28,500	101	2	150	3	nc
関東・東山	37,500	135,800	20,400	354	72,200	96	12,000	401	48,100	112	4,530	311	14,100	103	x	286	x	95
東海	17,400	66,800	16,900	386	65,200	108	18	256	46	187	511	276	1,410	106	x	269	x	nc
近畿	10,400	32,700	8,230	313	25,800	118	155	338	524	nc	1,760	332	5,840	111	x	219	x	nc
中国	6,740	23,900	2,890	360	10,400	122	2,950	386	11,400	120	x	192	x	98	790	247	1,950	129
四国	5,340	20,100	2,490	406	10,100	120	x	226	x	69	x	x	x	x	2,800	353	9,880	122
九州	59,500	265,100	36,300	465	168,700	138	21,200	423	89,600	141	28	257	72	nc	1,940	347	6,730	137
沖縄	14	18	12	133	16	92	2	87	2	140	-	-	-	nc	-	-	-	nc

(2) 解説

ア 小麦（子実用）

(ア) 作付面積

小麦の作付面積は22万haで、前年産に比べ7,400ha（3%）増加した。

これは、北海道や九州を中心に他作物からの転換等があったためである。

このうち、北海道は12万6,100ha、都府県は9万3,900haで、それぞれ前年産に比べ3,900ha（3%）、3,500ha（4%）増加した（表2-1、2-2、図2-2）。

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は499kgで、前年産を12%上回った。

これは、天候に恵まれ、生育が順調で登熟も良好であったためである。

このうち、北海道は578kgで、前年産を12%上回った。

また、都府県は393kgで、前年産を11%上回った。

なお、10a当たり平均収量対比は118%となった（表2-1、2-2、図2-2、2-3、2-4）。

(ウ) 収穫量

収穫量は109万7,000tで、前年産に比べ14万7,700t（16%）増加した。

このうち、北海道は72万8,400t、都府県は36万8,900tで、それぞれ前年産に比べ9万8,500t（16%）、4万9,500t（15%）増加した（表2-1、2-2、図2-2）。

図 2-2 小麦（子実用）の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

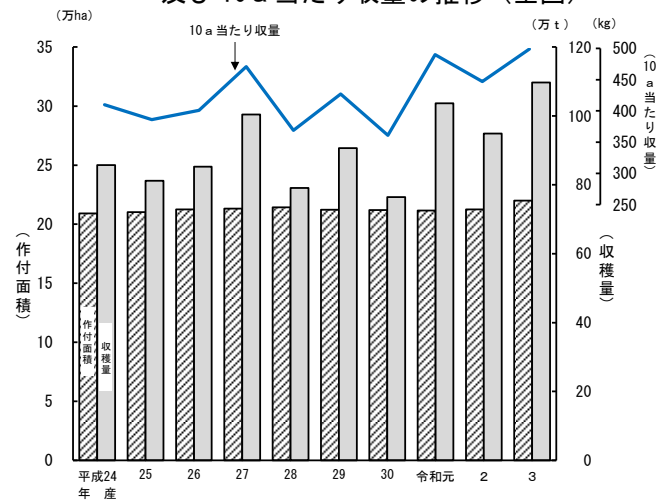


図 2-3 令和3年産麦作期間の半旬別気象経過（帯広）

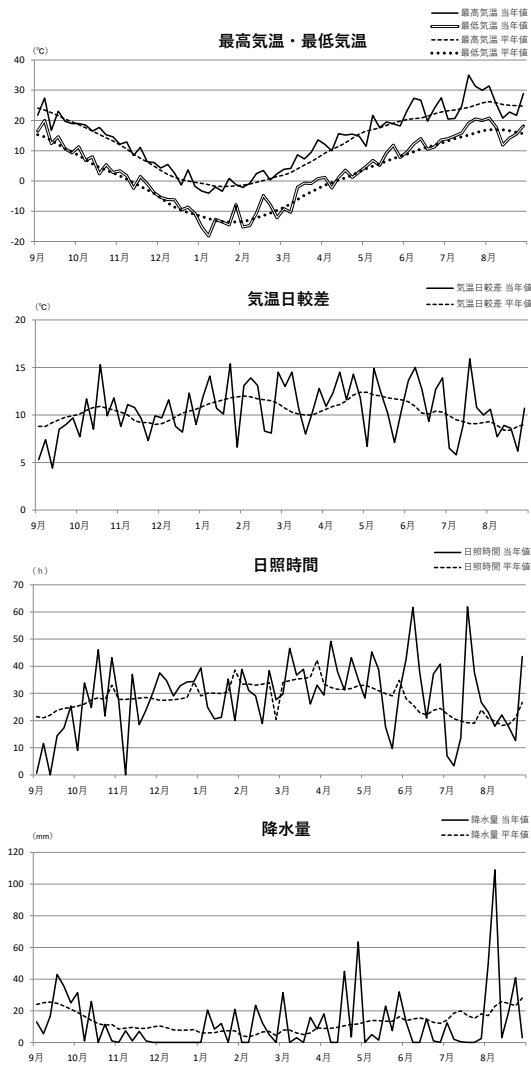
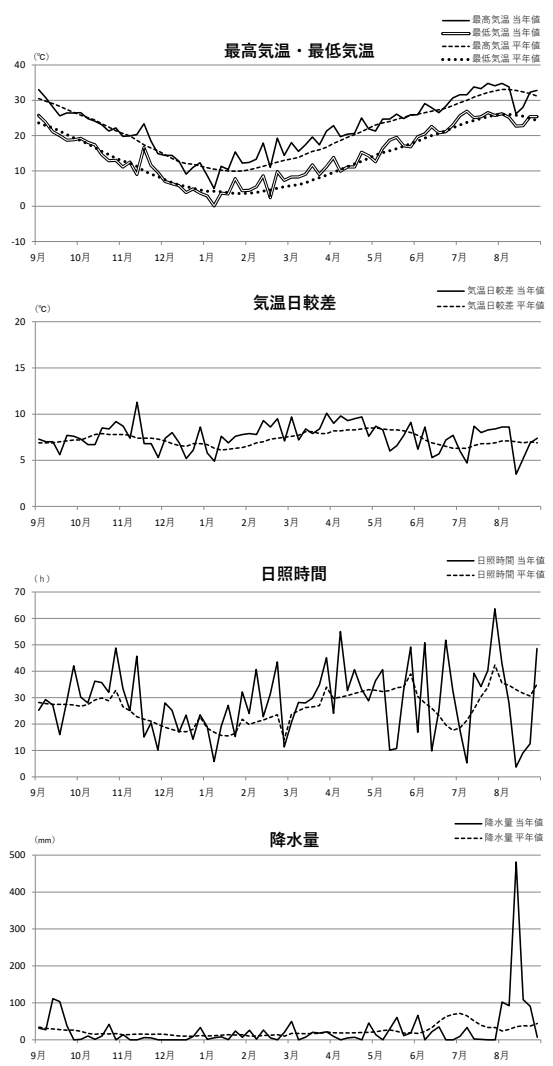


図 2-4 令和3年産麦作期間の半旬別気象経過（福岡）



イ 二条大麦（子実用）

(ア) 作付面積

二条大麦の作付面積は3万8,200haで、前年産に比べ1,100ha（3%）減少した。

これは、九州を中心に他作物への転換等があったためである。

このうち、北海道は1,740ha、都府県は3万6,400haで、それぞれ前年産に比べ20ha（1%）、1,100ha（3%）減少した（表2-1、2-2、図2-5）。

(イ) 10 a 当たり収量

10 a 当たり収量は413kgで、前年産を12%上回った。

これは、天候に恵まれ、生育が順調で登熟も良好であったためである。

なお、10 a 当たり平均収量対比は130%となった（表2-1、2-2、図2-5、2-6、2-7）。

(ウ) 収穫量

収穫量は15万7,600 t で、前年産に比べ1万2,900 t（9%）増加した（表2-1、2-2、図2-5）。

図2-5 二条大麦（子実用）の作付面積、収穫量及び10 a 当たり収量の推移（全国）

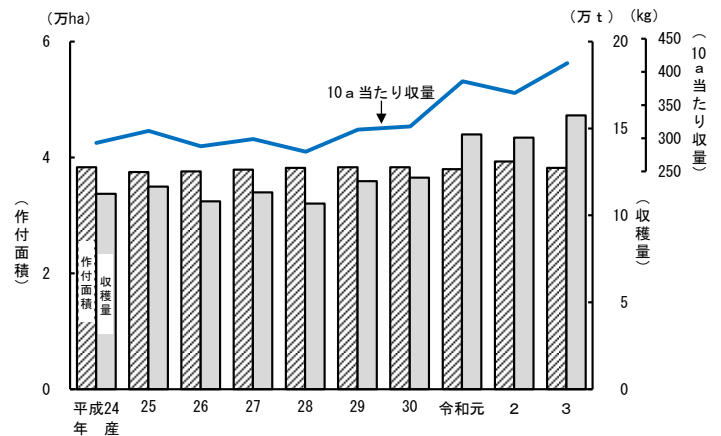


図2-6 令和3年産麦作期間の半旬別気象経過（栃木）

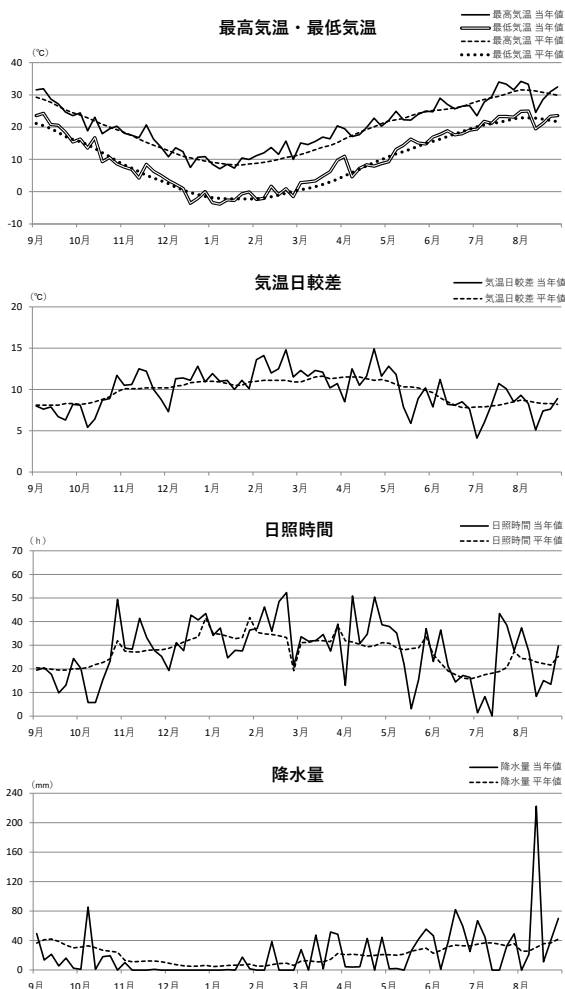
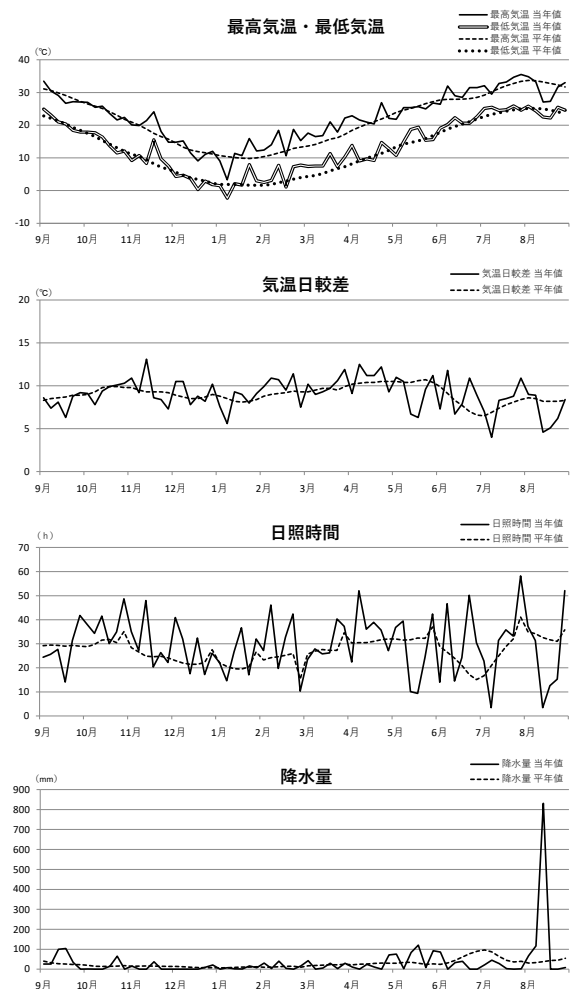


図2-7 令和3年産麦作期間の半旬別気象経過（佐賀）



ウ 六条大麦（子実用）

(ア) 作付面積

六条大麦の作付面積は1万8,100haで、前年産に比べ100ha（1%）増加した。

これは、東海や近畿において、他作物への転換等があったものの、東北や北陸を中心に他作物からの転換等があったためである（表2-1、2-2、図2-8）。

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は304kgで、前年産を3%下回った。

これは、おおむね天候に恵まれ、生育が順調であったものの、登熟期の多雨、日照不足等の影響から、前年産より登熟が抑制されたためである。

なお、10a当たり平均収量対比は104%となった（表2-1、2-2、図2-8、2-9、2-10）。

(ロ) 収穫量

収穫量は5万5,100tで、前年産に比べ1,500t（3%）減少した（表2-1、2-2、図2-8）。

図2-8 六条大麦（子実用）の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

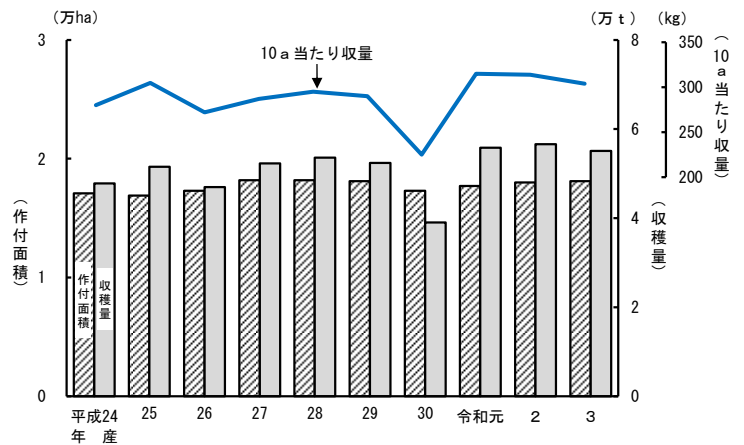


図2-9 令和3年産麦作期間の半月別気象経過（富山）

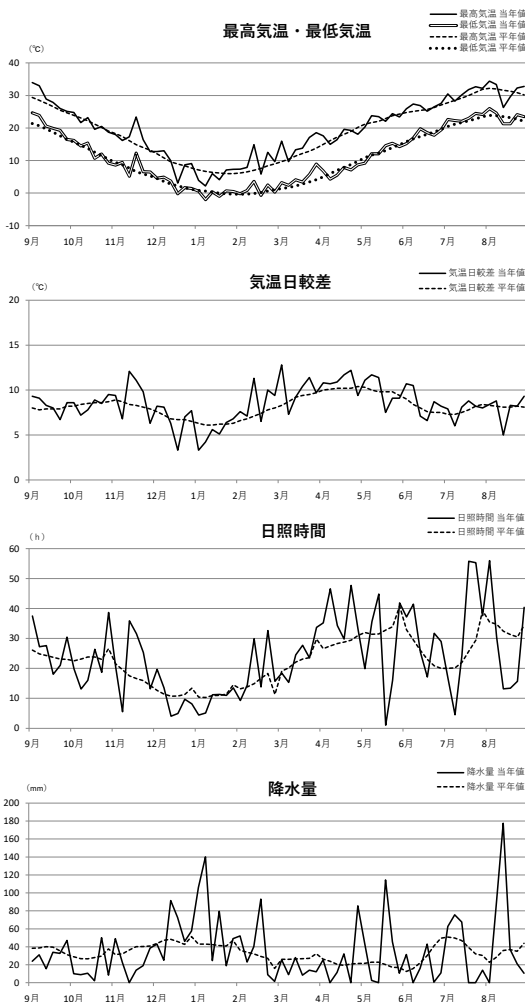
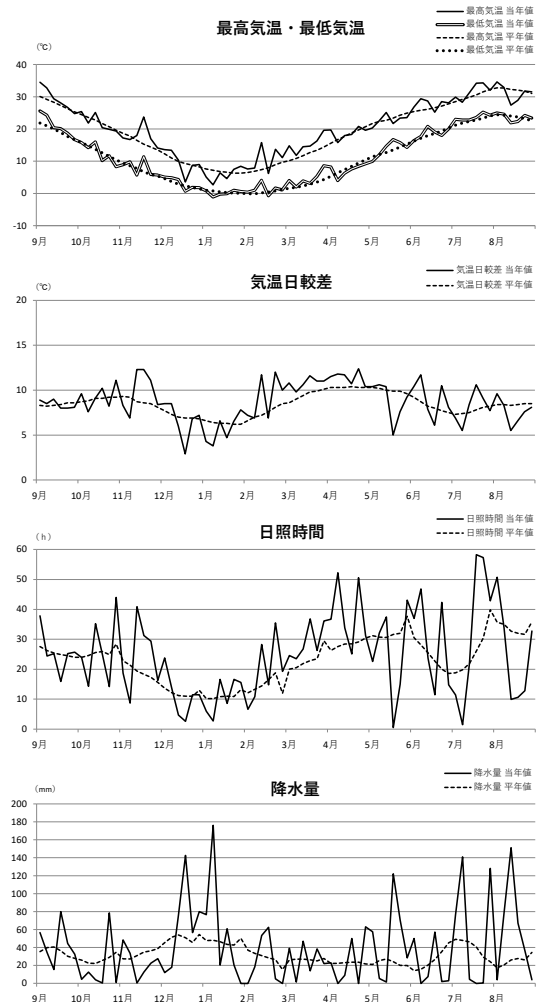


図2-10 令和3年産麦作期間の半月別気象経過（福井）



エ はだか麦（子実用）

(ア) 作付面積

はだか麦の作付面積は6,820haで、前年産に比べ490ha（8%）増加した。

これは、健康食品としての需要の高まり等により、他作物からの転換等があったためである（表2-1、2-2、図2-11）。

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は324kgで、前年産を1%上回った。

なお、10a当たり平均収量対比は122%となった（表2-1、2-2、図2-11）。

(ウ) 収穫量

収穫量は2万2,100tで、前年産に比べ1,700t（8%）増加した（表2-1、2-2、図2-11）。

図2-11 はだか麦（子実用）の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

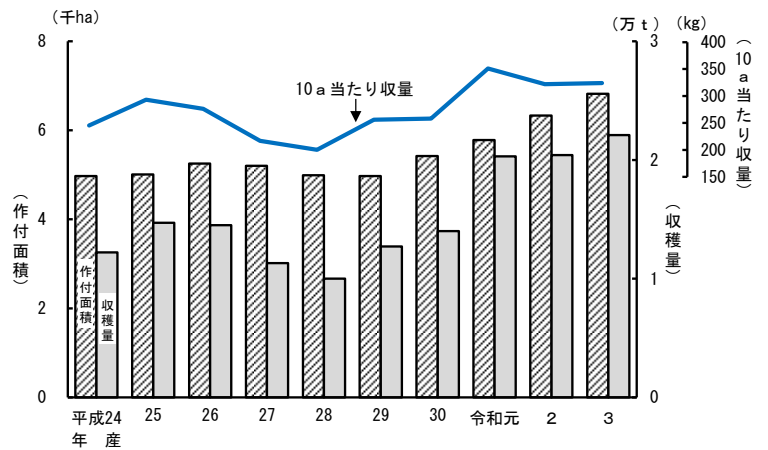


図2-12 令和3年産麦作期間の半旬別気象経過（愛媛）

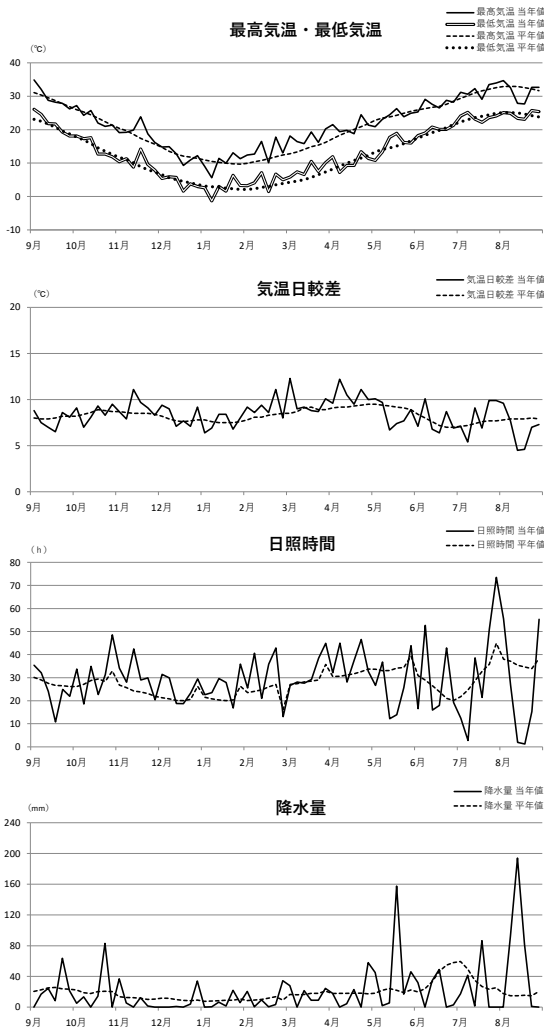
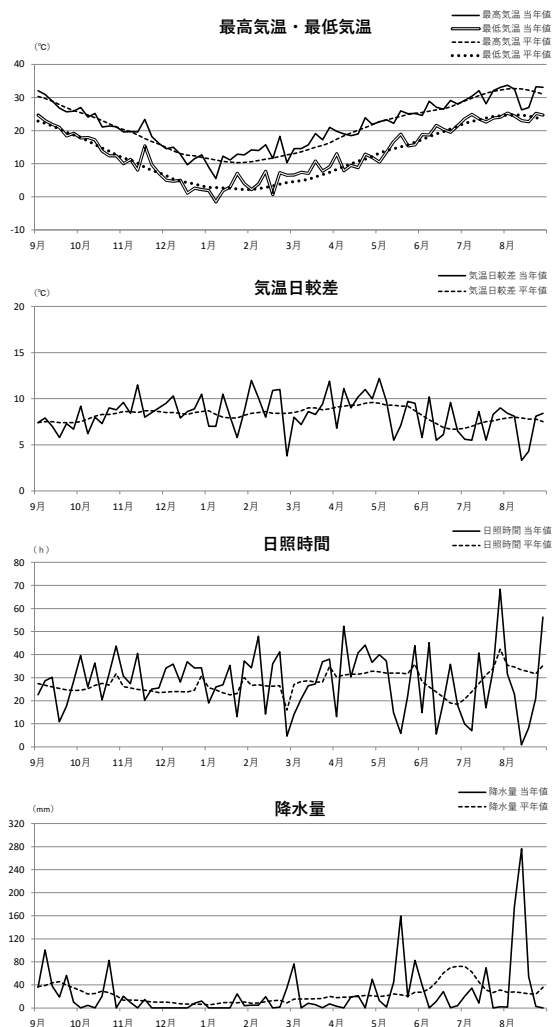


図2-13 令和3年産麦作期間の半旬別気象経過（大分）



3 豆類・そば

(1) 要 旨

令和3年産豆類（乾燥子実）の収穫量は、大豆が24万6,500 t、いんげんが7,200 t、らっかせいは1万4,800 tで、それぞれ前年産に比べ2万7,600 t（13%）、2,280 t（46%）、1,600 t（12%）増加した。一方、小豆は4万2,200 tで、前年産に比べ9,700 t（19%）減少した。

また、そば（乾燥子実）の収穫量は4万900 tで、前年産に比べ3,900 t（9%）減少した（表3）。

表3 令和3年産豆類（乾燥子実）及びそば（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較					（ 参 考 ）	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比		
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
大 豆	146,200	169	246,500	4,500	103	110	27,600	113	105	161
小 豆	23,300	181	42,200	△ 3,300	88	93	△ 9,700	81	84	215
うち北海道	19,000	206	39,100	△ 3,100	86	94	△ 9,500	80	83	247
いんげん	7,130	101	7,200	△ 240	97	151	2,280	146	59	170
うち北海道	6,660	103	6,860	△ 220	97	151	2,180	147	58	177
らっかせい	6,020	246	14,800	△ 200	97	116	1,600	112	110	224
うち千葉	4,890	255	12,500	△ 90	98	116	1,500	114	112	228
そ ば	65,500	62	40,900	△ 1,100	98	93	△ 3,900	91	111	56

注：小豆、いんげん及びらっかせいの作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、3年又は6年周期で全国調査を実施している。令和3年産調査については、作付面積調査は全国、収穫量調査は主産県を対象に調査を実施した。なお、全国の収穫量については、主産県の調査結果から推計したものである。

(2) 解 説

ア 大豆（乾燥子実）

(ア) 作付面積

大豆の作付面積は14万6,200haで、前年産に比べ4,500ha（3%）増加した（表3、図3-1）。

これは、他作物からの転換等があったためである。

(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は169kgで、前年産を10%上回った。

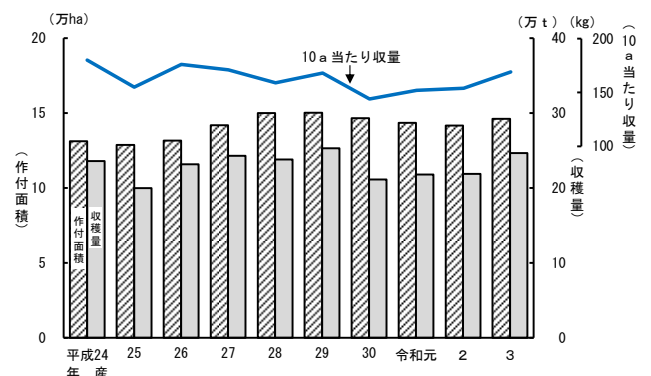
これは、8月の大雨等の影響がみられた九州の一部地域を除き、生育期間がおおむね天候に恵まれ、登熟も良好であったためである。

なお、10a 当たり平均収量対比は105%となった（表3、図3-1）。

(ウ) 収穫量

収穫量は24万6,500 tで、前年産に比べ2万7,600 t（13%）増加した（表3、図3-1）。

図3-1 大豆（乾燥子実）の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）



イ 小豆（乾燥子実）

(ア) 作付面積

小豆の作付面積は2万3,300haで、前年産に比べ3,300ha（12%）減少した。

このうち、主産地である北海道の作付面積は1万9,000haで、他作物への転換等により、前年産に比べ3,100ha（14%）減少した（表3、図3-2）。

(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は181kgで、作柄の悪かった前年産をさらに7%下回った。

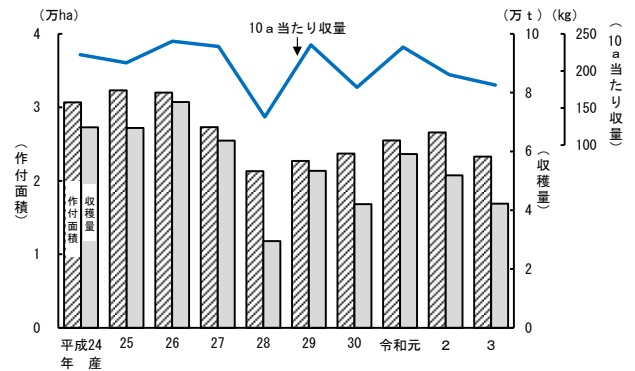
これは、主産地である北海道において、7月の高温・少雨の影響により、着さや数が少なかったこと等による。

なお、10a 当たり平均収量対比は、84%となった（表3、図3-2）。

(ウ) 収穫量

収穫量は4万2,200tで、前年産に比べ9,700t（19%）減少した（表3、図3-2）。

図3-2 小豆（乾燥子実）の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）



ウ いんげん（乾燥子実）

(ア) 作付面積

いんげんの作付面積は7,130haで、前年産に比べ240ha（3%）減少した。

このうち、主産地である北海道の作付面積は6,660haで、他作物への転換等により、前年産に比べ220ha（3%）減少した（表3、図3-3）。

(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は101kgで、前年産を51%上回った。

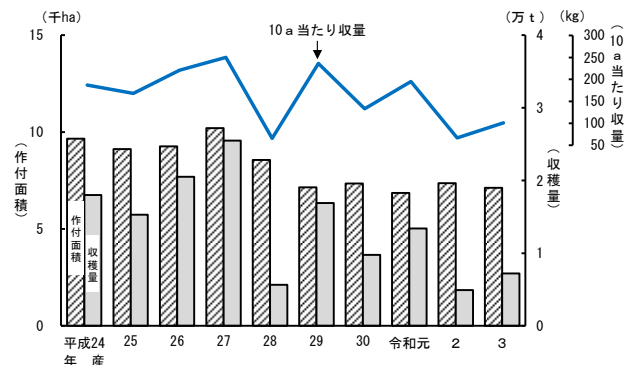
これは、主産地である北海道において、7月の高温・少雨の影響により、着さや数が少なく、未熟粒が多かったものの、特に作柄の悪かった前年産の10a 当たり収量を上回ったためである。

なお、10a 当たり平均収量対比は、59%となった（表3、図3-3）。

(ウ) 収穫量

収穫量は7,200tで、前年産に比べ2,280t（46%）増加した（表3、図3-3）。

図3-3 いんげん（乾燥子実）の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）



エ らっかせい（乾燥子実）

(ア) 作付面積

らっかせいの作付面積は6,020haで、前年産に比べ200ha（3%）減少した。

このうち、主産地である千葉県の前年産に比べ90ha（2%）減少した（表3、図3-4）。

(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は246kgで、前年産を16%上回った。

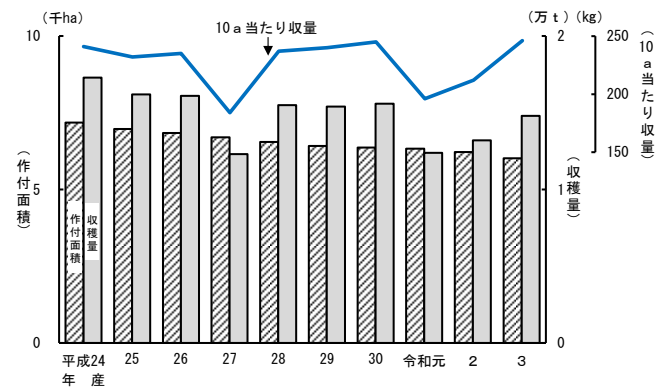
これは、主産地である千葉県において、おおむね天候に恵まれ生育が順調で、粒の肥大も良好であったためである。

なお、10a 当たり平均収量対比は、110%となった（表3、図3-4）。

(ウ) 収穫量

収穫量は1万4,800tで、前年産に比べ1,600t（12%）増加した（表3、図3-4）。

図3-4 らっかせい（乾燥子実）の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）



オ そば（乾燥子実）

(ア) 作付面積

そばの作付面積は6万5,500haで、前年産に比べ1,100ha（2%）減少した。

これは、他作物への転換等があったためである（表3、図3-5）。

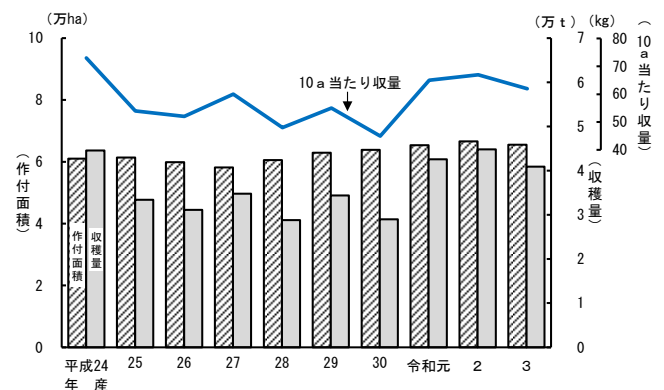
(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は62kgで、作柄の良かった前年産を7%下回った。

これは、生育期間の多雨による発芽不良等の被害があったためである。

なお、10a 当たり平均収量対比は111%となった（表3、図3-5）。

図3-5 そば（乾燥子実）の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）



(ウ) 収穫量

収穫量は4万900tで、前年産に比べ3,900t（9%）減少した（表3、図3-5）。

4 かんしょ

(1) 作付面積

かんしょの作付面積は3万2,400haで、前年産に比べ700ha（2%）減少した（表4、図4）。

(2) 10a当たり収量

10a当たり収量は2,070kgで、前年産並みとなった。

なお、前年産に引き続き、主に鹿児島県におけるサツマイモ基腐病の影響から、10a当たり平均収量対比は92%となった（表4、図4）。

(3) 収穫量

収穫量は67万1,900tで、前年産に比べ1万5,700t（2%）減少した（表4、図4）。

図4 かんしょの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

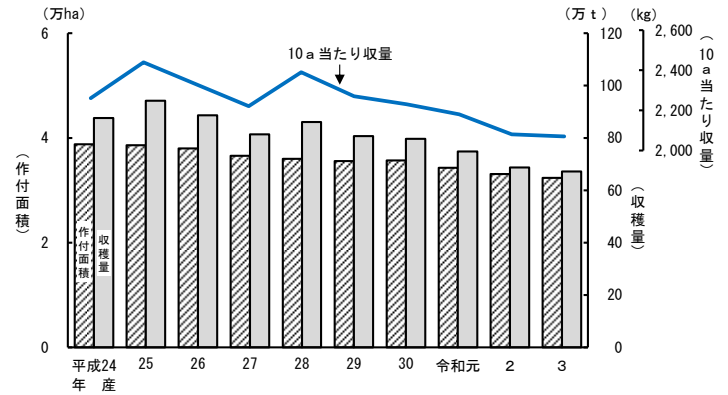


表4 令和3年産かんしょの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
	32,400	2,070	671,900	△ 700	98	100	△ 15,700	98	92	2,250	
うち 茨 城	7,220	2,620	189,200	220	103	101	7,200	104	102	2,560	
千 葉	3,800	2,300	87,400	△ 140	96	100	△ 2,800	97	95	2,430	
徳 島	1,090	2,490	27,100	0	100	100	0	100	100	2,500	
熊 本	782	2,300	18,000	△ 42	95	110	700	104	104	2,220	
宮 崎	3,020	2,350	71,000	30	101	102	1,900	103	95	2,480	
鹿 児 島	10,300	1,850	190,600	△ 600	94	94	△ 24,100	89	78	2,380	

注：かんしょの作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、3年又は6年周期で全国調査を実施している。令和3年産調査については、作付面積調査及び収穫量調査ともに主産県を対象に調査を実施した。なお、全国の作付面積及び収穫量については、主産県の調査結果から推計したものである。

5 飼料作物

(1) 牧草

ア 作付（栽培）面積

牧草の作付（栽培）面積は71万7,600haで、前年産並みとなった（表5-1、図5-1）。

イ 10a当たり収量

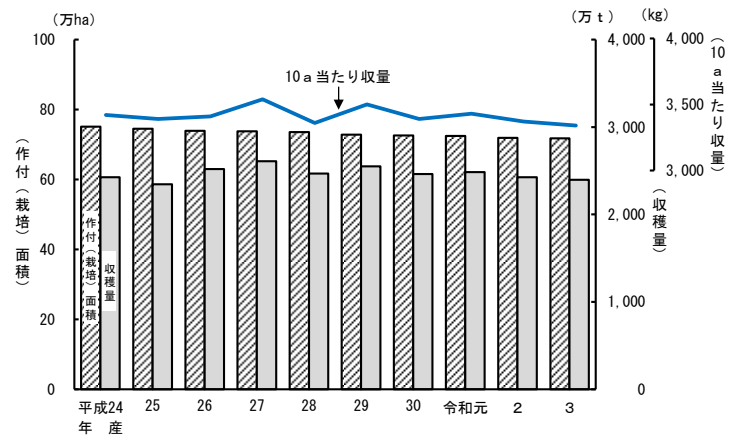
10a当たり収量は3,340kgで、前年産を1%下回った。

なお、10a当たり平均収量対比は98%となった（表5-1、図5-1）。

ウ 収穫量

収穫量は2,397万9,000tで、前年産に比べ26万5,000t（1%）減少した（表5-1、図5-1）。

図5-1 牧草の作付（栽培）面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



注：平成24年産及び平成25年産の10a当たり収量及び収穫量については、全国値の推計を行っていないため、主産県計の数値である。

表5-1 令和3年産牧草の作付（栽培）面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付(栽培)面積	10a当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付(栽培)面積		10a当たり収量		収穫量		10a当たり平均収量対比	10a当たり平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比	対差		
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
	717,600	3,340	23,979,000	△ 1,600	100	99	△ 265,000	99	98	3,420	
うち北海道	529,700	3,150	16,686,000	△ 700	100	98	△ 287,000	98	97	3,250	

注：牧草の作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、3年又は6年周期で全国調査を実施している。令和3年産調査については、作付面積調査及び収穫量調査ともに主産県を対象に調査を実施した。なお、全国の作付（栽培）面積及び収穫量については、主産県の調査結果から推計したものである。

(2) 青刈りとうもろこし

ア 作付面積

青刈りとうもろこしの作付面積は9万5,500haで、前年産並みとなった（表5-2、図5-2）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,140kgで、前年産を4%上回った。

なお、10a当たり平均収量対比は103%となった（表5-2、図5-2）。

ウ 収穫量

収穫量は490万4,000tで、前年産に比べ18万6,000t（4%）増加した（表5-2、図5-2）。

図5-2 青刈りとうもろこしの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

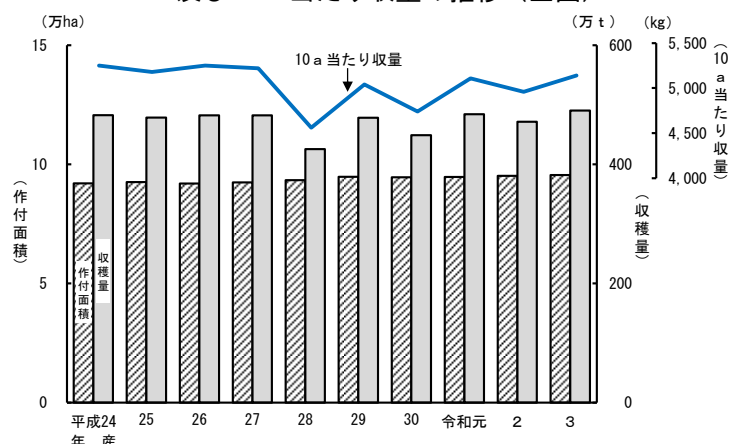


表5-2 令和3年産青刈りとうもろこしの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a 当たり 平均収量 対比	10a 当たり 平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比			
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
全国	95,500	5,140	4,904,000	300	100	104	186,000	104	103	5,010	
うち北海道	58,000	5,470	3,173,000	600	101	101	73,000	102	102	5,370	

注：青刈りとうもろこしの作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、3年又は6年周期で全国調査を実施している。令和3年産調査については、作付面積調査及び収穫量調査ともに主産県を対象に調査を実施した。なお、全国の作付面積及び収穫量については、主産県の調査結果から推計したものである。

(3) ソルゴー

ア 作付面積

ソルゴーの作付面積は1万2,500haで、前年産に比べ500ha（4%）減少した。

これは、他作物への転換等があったためである（表5-3、図5-3）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,110kgで、前年産を1%下回った。

なお、10a当たり平均収量対比は91%となった（表5-3、図5-3）。

ウ 収穫量

収穫量は51万4,300tで、前年産に比べ2万3,300t（4%）減少した（表5-3、図5-3）。

図5-3 ソルゴーの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

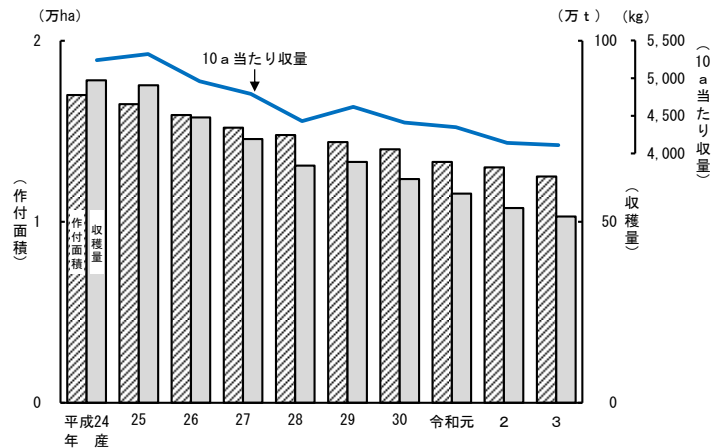


表5-3 令和3年産ソルゴーの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量		収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量
				対 差	対 比	対 比	対 比	対 差	対 比		
全 国	ha 12,500	kg 4,110	t 514,300	ha △ 500	% 96	% 99	t △ 23,300	% 96	% 91	kg 4,520	

注： ソルゴーの作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、3年又は6年周期で全国調査を実施している。令和3年産調査については、作付面積調査及び収穫量調査ともに主産県を対象に調査を実施した。なお、全国の作付面積及び収穫量については、主産県の調査結果から推計したものである。

6 工芸農作物

(1) 茶

ア 栽培面積

全国の茶の栽培面積は3万8,000haで、前年産に比べ1,100ha（3%）減少した（表6-1）。

イ 摘採実面積

主産県の摘採実面積は2万8,800haで、前年産に比べ900ha（3%）減少した（表6-2）。

ウ 生葉収穫量

主産県の生葉収穫量は33万2,200tで、需要の低迷を受けた前年産に比べ3万4,200t（11%）増加した。

これは、主産地である静岡県において二番茶以降おむね天候に恵まれたことに加え、ドリンク原料用の生産が増加したこと等による（表6-2）。

エ 荒茶生産量

主産県の荒茶生産量は7万700tで、前年産に比べ7,600t（12%）増加した。

府県別にみると、静岡県が2万9,700t（主産県計に占める割合は42%）、次いで鹿児島県が2万6,500t（同37%）、三重県が5,360t（同8%）となっている（表6-2、図6-1）。

表6-1 茶の栽培面積（全国）

単位：ha	
区分	栽培面積
令和2年	39,100
3	38,000
対前年比（%）	97

注：茶の栽培面積については、令和2年調査は全国、3年調査は主産県調査であり、3年の全国値は主産県の調査結果から推計したものである。

図6-1 茶の府県別荒茶生産量及び割合（主産県）

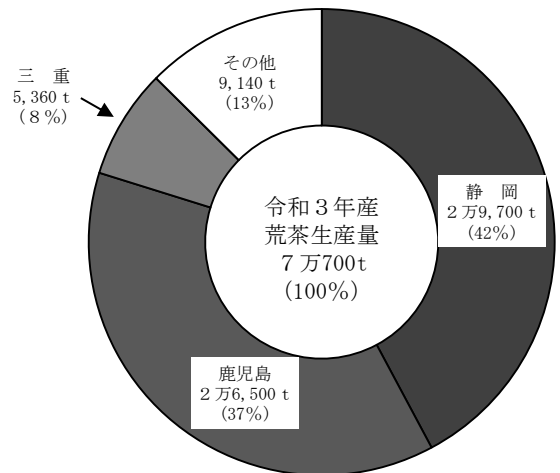


表6-2 令和3年産茶の摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

区分	摘採面積		10a当たり生葉収量		生葉収穫量		荒茶生産量	
	実面積	延べ面積	一番茶	二番茶	一番茶	二番茶	一番茶	二番茶
	ha	ha	kg	kg	t	t	t	t
主産県計 令和2年産	29,700	70,000	1,000	408	298,000	121,100	63,100	23,800
3	28,800	73,300	1,150	415	332,200	119,200	70,700	23,600
対前年産比（%）	97	105	115	102	111	98	112	99

注：茶の収穫量調査は主産県調査であり、6年周期で全国調査を実施している。令和3年産調査については主産県を対象に調査を実施した。なお、主産県は、埼玉県、静岡県、三重県、京都府、福岡県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県の8府県である。

(2) なたね（子実用）

ア 作付面積

なたねの作付面積は1,640haで、前年産に比べ190ha（10%）減少した。

これは、北海道や青森県において、他作物への転換等があったためである（表6-3、図6-2）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は197kgで、前年産を1%上回った。

なお、10a当たり平均収量対比は107%となった（表6-3、図6-2）。

ウ 収穫量

収穫量は3,230tで、前年産に比べ350t（10%）減少した。

これは、10a当たり収量が前年産を上回ったものの、作付面積が減少したためである（表6-3、図6-2）。

図6-2 なたね（子実用）の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

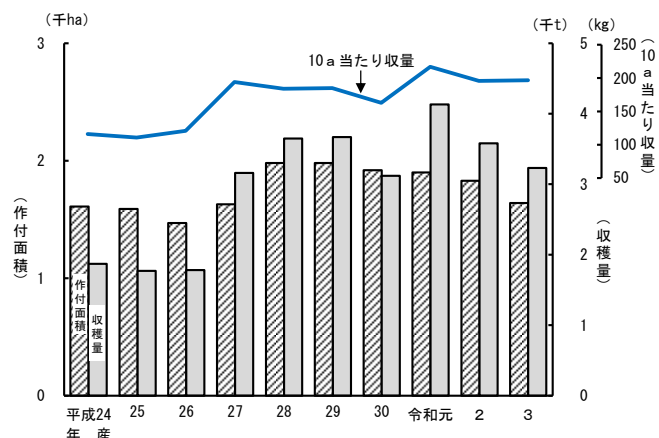


表6-3 令和3年産なたね（子実用）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 穫 量		収 穫 量		10 a 当 たり 平均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平均 収 量
				対 差	対 比	対 比	対 比	対 差	対 比		
全 国	ha 1,640	kg 197	t 3,230	ha △ 190	% 90	% 101	t △ 350	% 90	% 107	kg 184	

(3) てんさい（北海道）

ア 作付面積

北海道のてんさいの作付面積は5万7,700haで、前年産に比べ900ha（2%）増加した（表6-4、図6-3）。

イ 10a当たり収量

北海道の10a当たり収量は7,040kgで、前年産を2%上回った。

なお、10a当たり平均収量対比は107%となった（表6-4、図6-3）。

ウ 収穫量

北海道の収穫量は406万1,000tで、前年産に比べ14万9,000t（4%）増加した（表6-4、図6-3）。

図6-3 てんさいの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（北海道）

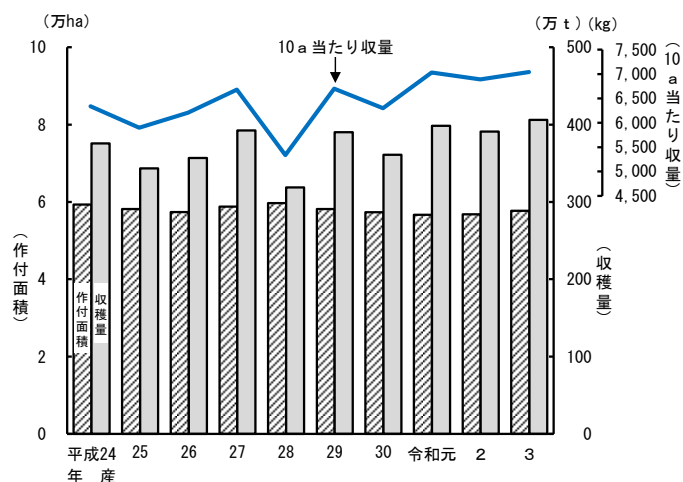


表6-4 令和3年産てんさいの作付面積、10a当たり収量及び収穫量（北海道）

区分	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較					(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収	収 穫 量		10 a 当 たり 平均収量 対 比	10 a 当 たり 平均収量
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比		
北海道	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg
	57,700	7,040	4,061,000	900	102	102	149,000	104	107	6,560

注：てんさいの調査は、北海道を対象に実施した。

(4) さとうきび

ア 収穫面積

さとうきびの収穫面積は2万3,300haで、前年産に比べ800ha（4%）増加した。

これは、沖縄県において、夏植えと株出しの収穫面積が増加したためである（表6-5、図6-4）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,830kgで、作柄の良かった前年産を2%下回った。

なお、10a当たり平均収量対比は106%となった（表6-5、図6-4）。

ウ 収穫量

収穫量は135万9,000tで、前年産に比べ2万3,000t（2%）増加した（表6-5、図6-4）。

図6-4 さとうきびの収穫面積、収穫量及び10a当たり収量の推移

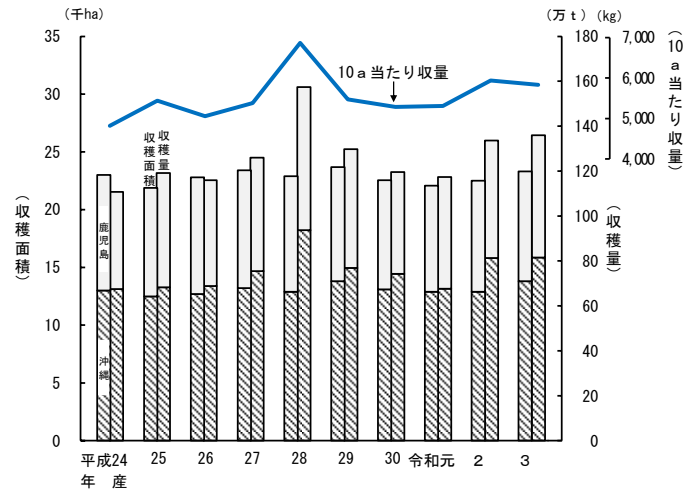


表6-5 令和3年産さとうきびの作型別栽培・収穫面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	栽培面積 ha	収穫面積				10a当たり収量			
		計	夏植え	春植え	株出し	計	夏植え	春植え	株出し
全国 令和2年産	27,900	22,500	4,590	3,210	14,600	5,940	7,730	5,320	5,550
3	28,400	23,300	4,660	3,040	15,600	5,830	7,410	5,520	5,420
対前年産比(%)	102	104	102	95	107	98	96	104	98
鹿児島	11,000	9,520	1,020	1,680	6,820	5,710	7,160	5,730	5,490
対前年産比(%)	100	99	86	93	103	105	101	107	106
沖縄	17,500	13,800	3,640	1,360	8,790	5,910	7,480	5,260	5,370
対前年産比(%)	104	107	107	96	109	94	94	100	92

区分	収穫量			
	計	夏植え	春植え	株出し
全国 令和2年産	1,336,000	354,900	170,700	810,800
3	1,359,000	345,300	167,800	846,100
対前年産比(%)	102	97	98	104
鹿児島	543,700	73,000	96,300	374,400
対前年産比(%)	104	87	100	110
沖縄	815,500	272,300	71,500	471,700
対前年産比(%)	100	101	97	101

注：さとうきびの作付面積調査及び収穫量調査は、鹿児島県及び沖縄県を対象に実施した。

(5) こんにゃくいも

ア 栽培面積・収穫面積

全国のこんにゃくいもの栽培面積は3,430haで、前年産に比べ140ha（4％）減少した。

また、全国の収穫面積は2,050haで、前年産に比べ90ha（4％）減少した。

これは、主に生産者の高齢化による労働力不足に伴う作付中止等があったためである（表6-6、図6-5）。

イ 10a当たり収量

全国の10a当たり収量は2,640kgで、前年産を5％上回った。

これは、主産地の群馬県において、低温・日照不足等の影響により、いもの肥大が抑制されたものの、作柄の悪かった前年産を上回ったためである。

なお、10a当たり平均収量対比は98％となった（表6-6、図6-5）。

ウ 収穫量

全国の収穫量は5万4,200tで、前年産に比べ500t（1％）増加した（表6-6、図6-5）。

図6-5 こんにゃくいもの収穫面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

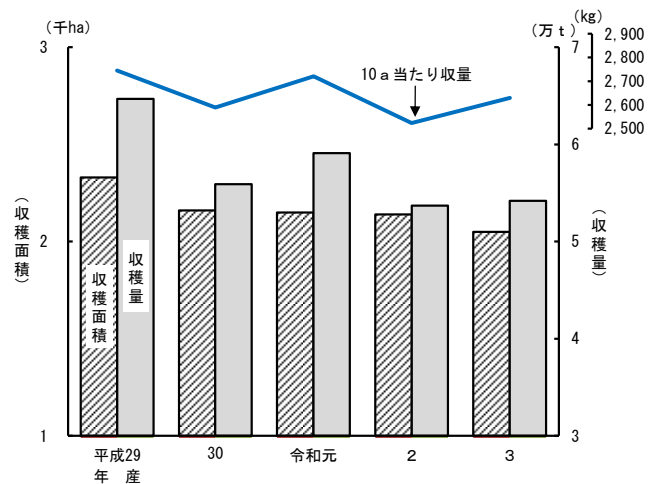


表6-6 令和3年産こんにゃくいもの栽培・収穫面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	栽培面積	収穫面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考)		
					栽培面積		収穫面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a 当たり 平均収量 対比	10a 当たり 平均収量
					対差	対比	対差	対比	対比	対差	対比	%	kg
全国	ha	ha	kg	t	ha	%	ha	%	%	t	%	%	kg
	3,430	2,050	2,640	54,200	△ 140	96	△ 90	96	105	500	101	98	2,700
うち群馬	3,130	1,870	2,740	51,200	△ 80	98	△ 60	97	105	1,000	102	95	2,890

注：こんにゃくいもの作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、3年又は6年周期で全国調査を実施している。令和3年産調査については、作付面積調査は全国、収穫量調査は主産県（群馬県）を対象に調査を実施した。なお、全国の栽培面積、収穫面積及び収穫量は、主産県の調査結果から推計したものである。

(6) い (主産県)

ア 作付面積

主産県（福岡県及び熊本県。以下同じ。）の「い」の作付面積は451haで、前年産に比べ27ha（6％）増加した。

これは、熊本県において、農業機械を新たに導入したこと等により生産体制が強化され規模拡大が図られたためである（表6－7、図6－6）。

イ 10a当たり収量

主産県の10a当たり収量は1,420kgで、前年産を5％下回った。

これは、熊本県において、5月以降の低温・日照不足等の影響により茎の伸長が抑制されたためである。

なお、10a当たり平均収量対比は101％となった（表6－7、図6－6）。

ウ 収穫量

主産県の収穫量は6,390tで、前年産に比べ90t（1％）増加した（表6－7、図6－6）。

エ い生産農家数、畳表生産農家数及び畳表生産量

主産県の「い」の生産農家数は346戸で、前年産に比べ17戸（5％）減少した。

このうち、畳表の生産まで一貫して行っている畳表生産農家数は344戸で、前年に比べ16戸（4％）減少した。

なお、令和2年7月から令和3年6月までの畳表生産量は195万枚で、前年に比べ31万枚（14％）減少した（表6－7）。

図6－6 「い」の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（主産県）

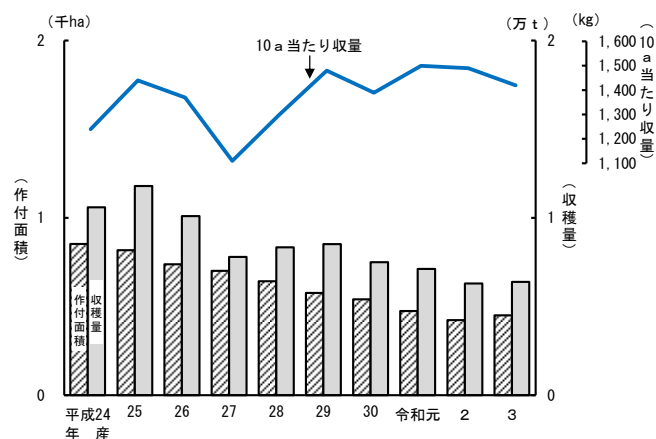


表6－7 令和3年産「い」の作付面積、10a当たり収量、収穫量等（主産県）

区分	い生産農家数	作付面積	10a当たり収量	収穫量	前年産との比較					(参考)		畳表生産農家数	畳表生産量	
					作付面積		10a当たり収量		収穫量		10a当たり平均収量対比			10a当たり平均収量
					対差	対比	対比	対比	対差	対比				
主産県計	戸	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	戸	千枚	
	346	451	1,420	6,390	27	106	95	90	101	101	1,410	344	1,950	
福岡	5	3	1,110	33	△ 1	75	101	△ 11	75	93	1,200	6	14	
熊本	341	448	1,420	6,360	28	107	95	100	102	101	1,410	338	1,940	

注：1 「い」の調査は、福岡県及び熊本県を対象に実施した。

2 い生産農家数は、令和3年産の「い」の生産を行った農家の数である。

3 畳表生産農家数は、「い」の生産から畳表の生産まで一貫して行っている農家で、令和2年7月から令和3年6月までに畳表の生産を行った農家の数である。

4 畳表生産量は、畳表生産農家によって令和2年7月から令和3年6月までに生産されたものである。

5 主産県計の10a当たり平均収量は、各県の10a当たり平均収量に当年産の作付面積を乗じて求めた収穫量（平均収量）を積上げ、当年産の主産県計作付面積で除して算出している。